

第26回 対馬軟式野球選手権大会

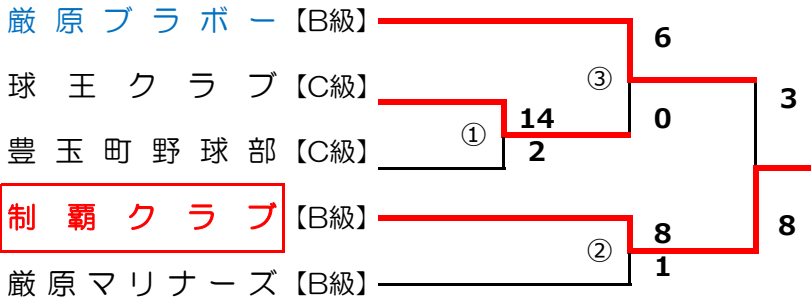
第71回長崎県軟式野球選手権大会・対馬予選会

会期＝令和3年9月19日(日)

会場＝美津島野球場

不参加チーム

豊玉サンライズ【C級】、ドンジャース【C級】、対馬・J【C級】
美津島ニューベアーズ【C級】、上対馬北斗クラブ【C級】



制覇クラブは2年ぶり7回目の
対馬選手権大会の優勝。
10月16日から諫早市で開催の
長崎県軟式野球選手権大会に
対馬支部代表で参加する

①【一回戦】09:25～ 1時間58分

球王クラブ	430 000 7	14
豊玉町野球部	010 000 1	2

【三】樋口

【二】縫田幸、村瀬

初回の球王クは先頭死球からの一死満塁に縫田泰の中前打で二者生還。さらに四球の二死満塁に糸瀬が右に2点打。打者一巡の二回にも四球に2敵失走者がボークや縫田幸の左越え二塁打などで還り序盤で7点差を付けた。その裏に1点返され6点差となったが、三～六回に二度の得点機を逸した最終七回に先頭から3死四球の満塁に内野ゴロの間の得点や暴投に悪送球などで大量の7点を得た。

豊玉町野球部は二回に先頭から連続死四球。村瀬が左越え二塁打し、なおも無死二三塁と攻めたが後続が凡退。三回以降も散発3安打で塁上に走者を置くが効果打が無く、七回に右線三塁打の樋口を松本の右線打で還しただけ。

【球王クラブ】 打安点球

⑧ 武末 太	3 0 0 1
8 扇 裕二	1 0 0 0
⑤ 小茂田史士	3 1 0 2
⑥ 小島 圭祐	5 0 0 0
② 井元 教介	3 0 0 2
⑦ 縫田 泰輝	4 2 2 1
① 縫田 幸広	3 1 1 2
③ 浦崎 裕介	2 0 0 2
⑨ 糸瀬 悠人	4 1 3 0
④ 福地 孝輝	3 1 0 0
H4 松島 哲也	0 0 0 0
犠O振3残7併1	31 6 6 10

【豊玉町野球部】 打安点球

⑥1 松本 拓之	4 1 1 0
①4 斉藤 良樹	4 1 0 0
③ 森 俊介	4 1 0 0
⑦ 犬束 伊理	2 1 0 1
⑤ 齋藤 公敬	2 0 0 1
② 村瀬 裕亮	3 1 1 0
⑧ 梅野 譲治	3 0 0 0
⑨ 清野賢士朗	2 0 0 0
H 築城 貴憲	1 0 0 0
④16 樋口 和	3 1 0 0
犠O振7残7併0	28 6 2 2

【審判】竹下智之、藤島隆之、神宮保夫、中島重幸

②【準決勝】11:35～ 1時間14分

厳原マリナーズ	100 00	1
制覇クラブ	701 0X	8

【本】春田剛志

【三】春田朱

【二】武本2、神宮

制覇クが初回に7得点し五回コールド勝ちした。先頭安打から3四球で押し出した後の二死満塁に四球で2点目。続く春田朱が右中間突破の三塁打で一掃し、春田剛志が左打席から豪快に右越え2ランで試合の大勢を決めると、二回二死後に春田剛志、春田一成が連安打の得点機を逸した後の三回に、先頭死球からの二死三塁に春田一馬が左線に流し打って7点差を付けた。

厳原マリナーズは初回に先頭の武本が左二塁打し三盗。一死後に三振振り逃げの一塁送球の間に本塁に還り先取点を挙げたが、二回に先頭二塁打の神宮や、三回は先頭死球と続く武本がエンタイトル二塁打の得点機を逸した。

【厳原マリナーズ】 打安点球

⑧ 武本龍太郎	2 2 0 1
⑦ 小山 耕平	3 0 0 0
⑤ 阿比留隆太	2 0 0 0
H 瀬谷 友啓	1 0 0 0
① 坂上 海翔	1 0 0 1
② 神宮大司朗	2 1 0 0
⑥ 西山 開斗	2 0 0 0
③ 若杉 諒	1 1 0 0
⑨ 小出 龍	2 0 0 0
④ 鬼橋 佑介	1 0 0 1
犠1振5残5併0	17 4 0 3

【制覇クラブ】 打安点球

⑤ 春田 一馬	3 2 1 0
⑥ 小宮 茂輝	2 0 0 1
④ 山坂 真心	3 0 0 0
⑦ 春田 剛希	2 1 0 1
7 小西 清弘	0 0 0 0
③ 春田 一成	2 1 1 1
⑨ 港 隆成	2 0 0 0
⑧ 小宮 祐希	0 0 1 2
② 春田 朱哉	1 1 3 0
1 春田 剛志	2 1 2 0
犠1振4残3併0	17 6 8 5

【審判】川崎仁、築城貴憲、松本拓之、齋藤公敬

③【準決勝】13:02～ 1時間41分

厳原ブラボー	102 021 0	6
球王クラブ	000 000 0	0

【二】吉富

縫田泰、扇

先頭で三内野安打の山口が犠打二進し井の右安打(二盗)の二三塁に小田の中犠飛で先取点を挙げた厳原ブラボーは二回に先頭中屋の安打と2四球で二死満塁の追加得点機を逸すると、三回に小田の安打を間の2四球で一死満塁。吉富の右安打と諫山の内野ゴロ送球の間に三走還り2点を追加。四回にも代った中庭から3死四球を得たが3残塁。五回二死後に敵失と死四球の満塁に敵失が絡んで2得点。六回にも二死から吉富が左越え二塁打。2連続四球の満塁に山口の左安打で6点目を挙げた。

球王クは初回の一死二塁を逸し、二回は先頭縫田泰と縫田幸が連続長短打も本塁死。七回は四球と扇の右中間二塁で作った二死二三塁の得点機も後続が無く無得点。

【厳原ブラボー】 打安点球

⑥ 山口 真吾	3 2 1 2
⑤ 小宮 博輝	2 0 0 2
④ 井 聡裕	4 1 0 1
③ 小田 剣生	3 1 1 1
⑧ 山代 毅	2 0 0 2
① 中屋 隆太	4 1 0 0
⑦ 吉富 源	3 2 1 1
② 諫山 祐也	2 0 1 1
⑨ 多田 康佑	3 0 0 1
犠3振3残13併0	27 7 4 11

【球王クラブ】 打安点球

② 小茂田史士	1 0 0 2
⑧45 武末 太	2 1 0 0
⑥1 小島 圭祐	3 0 0 0
⑤16 中庭 俊樹	2 0 0 1
⑦ 縫田 泰輝	3 1 0 0
① 縫田 幸広	1 1 0 0
9 糸瀬 悠人	2 0 0 0
⑨8 扇 裕二	3 1 0 0
③ 浦崎 裕介	1 0 0 0
H3 松島 哲也	2 0 0 0
④5 福地 孝輝	2 0 0 0
4 丸島 敦	0 0 0 0
犠O振3残5併1	22 4 0 3

【審判】吉野徹、神宮大司朗、藤島隆之、鬼橋佑介

【決勝】15:15～ 1時間37分

厳原ブラボー	000 030 0	3
制覇クラブ	000 080 X	8

【二】多田

四回までの厳原は1四球と三回先頭諫山の安打に敵失の3走者が1併殺を喫し2残塁。五回は悪送球で出た中屋が犠打二進後に諫山の左前打(二盗)で二三塁。ここで多田が中越え2点二塁打。さらに二死三塁に悪送球で還り3得点。

制覇クも四回まで1安打2死四球走者が三塁を踏めずにいた。3点差を追う五回は一死後に春田朱、春田剛、春田一が3連安打した満塁に小宮茂の四球押し出し。山坂の右犠飛で二死。小西が死球を得た満塁に春田一成が同点の右前打。港、小宮祐の連続死球で2点差を付けると、前試合でも満塁走者一掃した春田朱の左越え3点二塁打で点差を5点に広げると、六回から登板の春田剛が六、七回を6人で仕留め、厳原ブラボーの県選手権大会初出場を阻んだ。

【厳原ブラボー】 打安点球

⑥ 山口 真吾	2 0 0 1
⑤ 小宮 博輝	3 0 0 0
④ 井 聡裕	3 0 0 0
③ 小田 剣生	2 0 0 0
⑧ 山代 毅	3 0 0 0
① 中屋 隆太	3 0 0 0
⑦ 吉富 源	2 0 0 0
② 諫山 祐也	3 2 0 0
⑨ 多田 康佑	2 1 2 0
H 坂上 翔夢	1 0 0 0

【制覇クラブ】 打安点球

⑤ 春田 一馬	4 1 0 0
⑥ 小宮 茂輝	3 0 1 1
④ 山坂 真心	3 2 1 0
⑦9 小西 清弘	2 0 0 2
③ 春田 一成	3 1 1 1
⑨ 港 隆成	1 0 1 2
7 井村 昭洋	1 0 0 0
②8 小宮 祐希	2 0 1 1
①2 春田 朱哉	3 2 3 0
⑧1 春田 剛志	2 1 0 1

犠2振3残3併1 24 3 2 1

犠2振0残4併0 24 7 8 8

【審判】松尾吉範、中島重幸、竹下智之、扇裕二



優勝の制覇クラブは2年ぶり6回目の長崎県軟式野球選手権大会に出場する。

制覇クラブの長崎県軟式野球選手権大会戦績【チーム創設は平成17年】

年次	対戦相手	得点	安打	エラー	併殺	結果
平成19年	制覇クラブ	000	000	0	0	0
	親和銀行(推薦)	101	000	X	2	2
平成26年	長崎三菱自販(長崎)	001	001	時	2	2
	制覇クラブ	220	00X	間	4	4
	制覇クラブ	000	005	0	5	5
	南原クラブ(大村)	300	000	0	3	3
ベスト4	制覇クラブ	000	000	0	0	0
	親和銀行(推薦)	001	001	X	2	2
平成29年	制覇クラブ	000	022	時	4	4
	J・POWER'S松島(西海)	000	06X	間	6	6
平成30年	制覇クラブ	200	001	時	3	3
	海白大村(大村)	001	000	間	1	1
	制覇クラブ	000	000	時	0	0
	三菱重工長崎(推薦)	301	001x	間	5	5
令和元年	制覇クラブ	200	005	2	9	9
	Beams(島原)	001	000	2	3	3
	制覇クラブ	000	100	0	1	1
	親和銀行(推薦)	102	110	X	5	5

平成28年は予選会で優勝し代表となったが、翌週の県民体育大会とダブル出場となったため、県選手権大会を辞退し県選手権大会予選会で準優勝の厳原マリナーズが県選手権大会に参加。

対馬選手権大会は第26回大会を迎えたが、以前は対馬町村会長杯野球大会と称していた。長崎県軟式野球選手権大会は昭和26年に始まったが、昭和44年までの19大会で対馬地区から参加したのは6大会(うち棄権1)のみであった。昭和45年から毎年参加するようになり、その予選会を行っていたが、50年に対馬町村会から優勝トロフィーが贈られ『対馬町村会長杯…』となった。

対馬6町代表チームの対抗戦として、平成7年の第21回大会まで行っていたが、翌8年から町代表チーム対抗で無く対馬連盟登録全チーム参加によるトーナメント戦とし、大会名も『対馬選手権大

会』と呼称した。初年度の参加は登録20チームで17チームが参加し、初日は2会場で二回戦9試合。第二日に三回戦と準決勝の6試合を1会場で行ない、第三日に決勝戦(9回戦)とした。初代の対馬選手権チャンピオンを決める一戦は厳原レパーズが六回に2点を挙げ、エースの木屋が上対馬ライオンズを9回封じて2-0で制した。

平成9年から14年までの6年間は20チーム越え(最高22)の参加となったが年々減少し、26年に10チームとなり、27年から8チーム(不参加4)となった。

平成8年以降の県選手権大会の対馬代表の戦績

回	年	予選会 参加	県選手権大会 代表チーム	戦 績
1	8年	17	厳原レパーズ	7-12 西海棒球団(西彼)
2	9年	22	大洋真珠クラブ	4-5 鹿町バンビーズ(県北)
3	10年	22	上対馬メッツ	3-7 ソニー長崎(諫早)
4	11年	21	豊玉町野球部	7-1 島クラブ(平戸) 0-3 親和銀行(推薦:前年優勝)
5	12年	21	上対馬ライオンズ	4-8 福江球友会(福江)
6	13年	20	上対馬メッツ	0-1 波佐見野球クラブ(東彼)
7	14年	20	厳原レパーズ	1-4 若松クラブ(上五島)
8	15年	19	厳原NYビーンズ	0-2 波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)
9	16年	18	厳原マリナーズ	5-0 県職五島(福江) 2-3 親和銀行(推薦:前年優勝)
10	17年	18	上対馬クラブ	5-2 平戸クラブ(平戸) 1-8 TEAM橋口(大村)
11	18年	17	厳原NYビーンズ(BEST4)	4-1 たちばな信用金庫(諫早) 5-0 南串野球部(県南) 0-9 三菱重工長崎(推薦:前年優勝)
12	19年	16	制覇クラブ	0-2 親和銀行(推薦:前年優勝)
13	20年	14	豊玉町野球部	0-8 親和銀行(佐世保)
14	21年	13	厳原NYビーンズ	2-6 アイケン医院(推薦:前年優勝)
15	22年	14	60回 記念大会	豊玉町野球部 4-5 若松クラブ(上五島)
			上対馬メッツ	2-6 舩田グループ(上五島)
16	23年	13	厳原NYビーンズ	0-4 JF長崎県漁連野球部(諫早)
17	24年	11	厳原マリナーズ	1-8 親和銀行(推薦:前年優勝)
18	25年	11	厳原マリナーズ	2-7 島原市役所野球部(島原)
19	26年	10	制覇クラブ(BEST4)	4-2 長崎三菱自動車販売 5-3 南原クラブ(推薦:大村) 0-2 親和銀行(前年優勝)
20	27年	8	上対馬メッツ	0-10 親和銀行(推薦:前年優勝)
21	28年	8	厳原マリナーズ	0-4 三菱重工長崎(推薦:前年優勝)
			対馬選手権は制覇クラブが優勝。県選手権大会は翌週開催の県民体育大会とのダブル出場のため辞退。 対馬選手権準優勝の厳原マリナーズが県選手権大会に出場した。	
22	29年	8	制覇クラブ	4-6 J・POWER' S松島(西海)
23	30年	7	制覇クラブ	3-1 海自大村(大村) 0-5 三菱重工長崎(A級推薦)
24	元年	5	制覇クラブ	9-3 Beams(島原) 1-5 親和銀行(A級推薦)
25	2年	7	厳原マリナーズ	0-7 長崎サニクリーン(A級推薦)
26	3年	5	制覇クラブ	